

夏越大祓に300名が参拝



雨中の祭典「茅の輪ぐり」に60名参列、大人気!

半年のけがれを取り除き、残り半年間の無病息災を祈る夏越大祓を6月30日斎行しました。雨の中60名余りが茅の輪ぐりに参列するなど当日は300名の参拝者で大賑わいでした。茅の輪ぐりは終日活気を帯びていました。

毎年設置してきていますが、今年は茅の輪ぐりの由来・効用・くぐり方の説明を掲示したのが関心を高めたようで、子供さんたちは何度もくぐって親御さんのカメラ・ビデオにポーズをとっていました。「神は人の敬により威を増す」皆様雨の中、多数の参拝ありがとうございました。



撰社三柱神社の鳥居が老朽化していたところ、篤志家より奉納された浄財で、このたび建て替えさせていただきました。そこで7月1日に奉納奉告祭を執り行いました。

三柱神社鳥居建替奉納奉告祭

「三柱さん」装いを新たに

神代之風



発行：玉置神社
発行人：弓場 季彦
TEL 0746-64-0500
FAX 0746-64-0429

ご案内

8月24日(土) 午前十一時(どなたでもお聴きになれます)
薩摩琵琶名手 関川鶴祐氏 演奏奉納 | 平家物語より |

新宮司は、何を為すのか・・・

フリージャーナリスト
元読売新聞社社会部記者
水野 成之

熊野三山奥の宮「玉置神社」を訪ねた。杉の巨樹に包まれた境内に霧が立ちこめている。深い静寂。何かに抱きしめられている不思議感。心がふるえていた。憧れていた聖なる地。そこに初めて立った。

宮司の弓場さんが境内をくまなく案内してくださった。「これが樹齢推定三千年の神木です。生命の永遠性、圧倒的な神聖を感じ取っていたらと・・・」と言いながら、巨樹に手を合わせ、深々と礼をされた。弓場宮司は、元、奈良県のお役人である。広報課長、秘書課長、知事公室長を務めた。年間百冊の本を読み、映画を語るとプロ顔負け、日本舞踊を舞い、狂言をたしなみ、ドラムを叩く。融通のきかない、形式張ったお役人象とは縁遠い人だ。そして、人なつっこい。

県退職のあと奈良テレビ社長に。改革路線で功績をあげたが、特に、地域文化の再発見と再発掘に多大の貢献を印した。

御本殿、神楽殿、後白河院御参拝記念塔：話し好きな宮司は飽きさせない。読書家であり、趣味人であり、旺盛な行動力と多彩な人脈からくる「話のタネ」は尽きることがない。国の重要文化財に指定されている社務所の宮司居室で様々な話を伺った。「こうしたい」「あれもしたい」。静かな口ぶりの中にこもる

情熱。周りは杉の一枚板に江戸期狩野派絵師によって描かれた極彩色の竜虎の図。私には、その闘魂を内に秘めた姿にただ唸り続けた。改革と行動の人。新しい宮司は、神々しい山上の玉置神社で何を為そうとし、何を為すのか、目が離せない。

元OSK(大阪松竹歌劇団)吉津たかしさん 「恋しくて十津川」舞奉納・振付指導



盆踊りでも馴染むようにと「恋しくて十津川」の歌に舞を振付けられた吉津たかしさん。

この歌が発表されて以来、唯一人歌いつづけてきている三倉永楓さんが唄い、プロドラマの村尾コージ氏が太鼓(ドラム)で囃し、その舞を奉納された。誰もが踊れるようにと極めてシンプルな振付となっている。

吉津さんは長年OSKに所属してこられたが特に日本舞踊は出色である。奉納された当日、神楽殿で希望者と共に踊り、手ぶりの助言、扇子さばきなども丁寧に模範を示しておられました。

駆け付けたこの歌の作詞作曲者・福西輝恒氏も踊りの輪に入って汗かいておられました。参加できなかった方々から、「この舞を習いたい」との声もでており、状況を見ながら定期的に稽古できる機会を提供させていただく予定です。関心のある方は社務所へお問い合わせください。

国宝 大神社展

東京国立博物館平成館



全国の各神社に奉納されてきた国宝・重要文化財の美術工芸品160点が一堂に会した展覧会が東京国立博物館・平成館において開催されました。この展覧会は、伊勢神宮の第62回遷宮を機に、神社本庁をはじめ、日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に拝観できる貴重な機会を提供されたものであり、まさしく全国の神社パワーを結集した空前絶後ともいえるような神道美術展でありました。普段は観ることのできない神社の宝物。本当は目に見えない神々の姿。この機会を逃したらもう二度と見ることができないのではないかとという緊張感と息をのむばかりの美しさと神秘さに圧倒されながら、しばし贅沢な時間を過ごさせていただきました。

玉置山文化サロン

生誕200年記念特別展 夢を奏でたワーグナー

奈良県文化会館

昨年から開催されている音楽祭「ムジークフェストなら」。今年は、6月に11日間にわたり開催された。その一部である「ワーグナー展」を拝見。
構成は次のとおりであった。

一、夢の城〜ノイシュヴァンシュタイン城
(白亜の城)

二、夢の出会い〜ルートヴィヒ2世

三、夢の劇場〜バイロイト祝祭劇場

四、夢の楽劇〜ワーグナーの魔力

愛用のグラランドピアノも展示されていた。

日本初公開、目の前で拝見できて感激。

五、夢の続き〜今に生きるワーグナー

ワーグナーの曲は映画にも数々用いられている。たとえば、チャップリンの「独裁者」(1940)ではローエングリンが、「地獄の黙示録」(1979)ではワルキューレが流れている。

コンパクトな展示会だがとても中身は濃い。身近なところでこのようなすぐれた企画に巡り合えるとは幸せ。ルートヴィヒとワーグナーに逢いたくなって、2本のDVDを引っ張り出して再度見た。

ルキノ・ヴィスコンティ監督の長編映画「ルートヴィヒ」(1976)。これがまた重厚。自らの鑑賞能力の欠如を実感した。

「ワーグナーとコジマ」。ワーグナーの24才年下の妻は、リストの娘のコジマ。ニーチエもリストもからみ、ワーグナーの俗物的な面も垣間見られる。ちょっと謎めいた映画なのか。

ならまちナイトカルチャー

奈良市ならまちセンター

落語・能・舞・雅楽・狂言など演じられている。観光客相手ということで開催時間は午後8時と遅い。

過日、狂言を鑑賞。演目はごく身近で見られ、迫力がびしびし伝わったが、一時間という中で、狂言の簡単な解説・狂言衣装を着付け体験(観客の中から一人モデルとなって、着付けを舞台上で体験させてもらえる。着付けしていく手順は、観客もじっくりと拝見できる。)及び質問コーナーで構成されている。

初めて狂言に接したという人もかなりいたが、質問はなかなか鋭く、答えもユーモア交えて解り易く参考になった。
濃密なプログラムとなっていると感じた。

玉置神社で宿泊の問い合わせ

最近、神社の施設で宿泊を希望する問い合わせが増えてきています。

残念ながら現在のところ一般の方をお泊めする宿泊施設はございません。

山伏の修行者または玉置神社の参拝が修行の一環と見なされる場合に参籠を認めております。

この参籠は、あらかじめファックスまたは手紙等で計画書を提出していただき、その内容が適切であると認められると参籠許可書を発行しております。できるだけ相談していただいで計画書をご提出願います。

なお、施設要件、法的要件など所要の要件が整えば一般の参拝者にも便宜を図ることも課題としております。



神社日誌抄

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|--|
| 7月1日 | ・出雲大社玉置教月次祭
・雅楽箱教室開催(体験参加してませんか) | 7月15日 | ・三柱神社月次祭
(火祭りに参加) |
| 7月5日 | ・富士通社員16名研修で参拝 | 7月18日 | ・東南院代表五條良知氏二行
22名大室奥庭修行で参籠 |
| 7月6日 | ・廣教子さくらグループ6名棟梁鑑賞等に来社 | 7月22日 | ・書家北原麗さん、境内において揮毫製作をして奉納されました |
| 7月8日 | ・地球と愛をつなぐロジエック
トA 徳田純子さん参拝 | 7月24日 | ・本社月次祭
・新十津川町児童生徒、教職員
の皆さん31名研修参拝 |
| 7月13日 | ・大井史郎さん二行15名正
式参拝 | 7月27日 | ・本社にて結婚式。お二人は神代杉の前でも3000年の愛を誓っておられたようです。 |
| 7月14日 | ・竹林院主福井良盟氏二行
30名大室奥庭修行で参籠 | | |

襖絵紹介(3)

橘保春の「鶴の図」について

(前号より続く)橘保春ら狩野派の絵師は粉本から図柄を抜き写し、それらを組み合わせるにより新しい図様を生み出していったようである。

保春も橘守国の『絵本寫寶袋』を始め豊富な粉本を参考にして障壁画の作成に当たったことと思われる。しかし、この「鶴の図」を特徴付けているのは、水墨画の「減筆体」にも似た独特な画面空間だろう。

減筆体は通常水墨画で用いられ、景物を省略して描き画面に余白を持たせ、独特の画面空間作りだす手法である。京都の酬恩庵一休寺所蔵、狩野探幽筆の障壁



南壁 松鶴図 部分



『絵本寫寶袋』早稲田大学図書館所蔵

画等に狩野派の減筆体の典型が見られる。「鶴の間」南壁に書かれた若松は、薄らと描かれた土坡と金砂子が作り出す線により切り取られ、その樹幹が描かれていない。これは主要題材である鶴を引き立たせる為の手法であろう。保春はある種の減筆体をこの図で試みているように見える。

出雲大社遷宮行事に参加

出雲大社の大遷宮祭に参拝させていただいた。60年に一度の遷宮祭である。

遷宮とは、神様や人の心を一新する「よみがえり」の意味もあるとされる。国譲り神話の中で、国譲りの条件として挙げられている大社の造営。その神代の取り決めのままに大神殿が甦った。ご神体を本殿に戻す「本殿遷座祭」が、5月10日夜に営まれ一連の遷宮行事が続けられた。撮影許可を得たところをビデオとカメラで撮影させていただき、時が経つのを忘れた。

本殿に参拝する人々が長い列を作って、順次二拝四拍手一拝で参拝されていた。本殿の周囲を外側から360度回って撮影。圧巻のたたくまいに息を飲む。本殿遷座奉祝祭を視察。参進の映像は良いポイントで撮影できた。奉祝行事として東神苑特設ステージで、伝統芸能やコンサートなど29日間連続の熱演。春日大社南都樂所が、このイベントのトップ春日舞楽を上演された。

笠置さんお元気で解説されておられた。何かホツとし、嬉しさが込み上げてきたのはどうしてでしょうね。

連続テレビ番組

「遠くへ行きたい」取材ロケと放送

読売テレビスタッフにより本殿、神代杉、大杉など中心に取材のロケがありました。ダイレクター氏のテキパキとした指示のもと、俳優の原田龍二さんがそれぞれのポイントへ誘い、官司に問いかけながら玉置神社の歴史等を紹介しようとするもので、しばし境内一円を巡りました。

質問は、ほぼぶっつけ本番でしたが、シンプル・的確な問いかけは流石ですね。原田さんはテレビ番組「水戸黄門シリーズ」で助さん役を7年間演じられたそうです。

番組は既に放送され、本殿の説明など大幅にカットされていたのは残念でしたが、多方面から多くの感想が寄せられました。大変参考になりました。どなた様もありがとうございます。

崇敬会入会のご案内

玉置神社崇敬会は全国をはじめ世界からの玉置神社を崇敬する人々の集いです。ご入会いただきますと様々な特典があります。

詳しくはこちらにお問い合わせ下さい。

玉置神社社務所

電話 〇七四六―六四―〇五〇〇

FAX 〇七四六―六四―〇四二九